



●磐司岩（磐神岩）  
名取川上流の二口沢と大行沢の中間に位置する凝灰岩・集塊岩からなる柱状節理の大岩壁で、二口沢の北側を表磐司（陽磐司）、南側を陰磐司、大行沢に面する側を裏磐司といいます。最も間近に見ることができる表磐司は、高さ80～150mの垂直な岩壁が季節によっては森嚴な滝を抱えて3km以上も連なる大パノラマで、その壮大な景観は見る者を圧倒します。岩の隙間や岩上には、イワキンバイ、イワヒバなどの岩壁植物が群生して彩を添え、秋の紅葉の季には辺りの広葉樹と相まって感動的な美しさとなります。

四季折々に豊かな個性が輝く秋保。とりわけ、そり立つ磐司の先に広がる奥秋保の「秋」は、「息をのむほどの艶やかな錦！」で訪れる人々を魅了します。また、古の足軽集落（野尻）から二口峠、そして山寺へと向かう道は、慈覚大師円仁巡錫の道と伝わっています。今は人も途絶え、静かに時を刻んでいるこの峠道も、かつては「武士」が対峙し、あるいは「修験」や「交易の要路」として栄えた道でもありました。こうした悠久の時の流れに思いを馳せながら、林道沿いに介在する秋保が誇る二口山塊の大自然に触れる山歩きの旅、魅惑のロングトレイルとはなりますが、足を踏み出すごとにゆっくりとポジティブな気分になってくるのが分かります。

さあ、ザック一つ背負って週末は二口峠越えの旅、いかがでしょうか。



## 二口峠越え

### いってみっぺ 秋保 二口峠越え

企画・発行：秋保地域資源活用委員会・仙台市  
連絡先：秋保総合支所総務課（022-399-2111）  
秋保市民センター（022-399-2316）

二口山塊の大自然を満喫しながら、  
山寺への古街道をトレッキング  
峠越えで行き来した先人たちの声を聴く旅

掲載されている情報は、令和2年10月現在のものです。

訪れてみたい秋保  
二口街道ツアー 62

No.1



朝風に尾花波うつ岸の淵  
磐神岩のそり立つ見ゆ  
土井 晚翠

名称の由来は、山姫と猿王の間に生まれ、マタギの祖とされる磐次郎・磐三郎という容貌魁偉な狩人（磐司磐三郎という単身説もあり）が、この山塊一帯に住み山野を疾駆して獵をしていたことにちなむといわれています。民俗学者の柳田国男は、その著「神を助けた話」の中で、磐司は磐神信仰（磐神＝イワガミ・岩を神として崇めたマタギの守護神）による地名であると説いています。古来より、秋保に訪れた旅人の多くが最たる景勝地として記し、今なお二口山塊の奇勝たる風景の主役となっています。

